

# Human ヒューマン

2020.9 Vol.15

## CONTENTS

02 特集  
北海道観光・地域振興  
特別講座の紹介

04 現役学生インタビュー  
第26期「鶴雅観光人材養成講座」を受講して

06 ゼミ紹介  
日本文化学科 田中 綾 3年ゼミ(1部)  
英米文化学科 森川 慎也 3年ゼミ(2部)

07 研究留学について  
英米文化学科 教授 佐藤 貴史

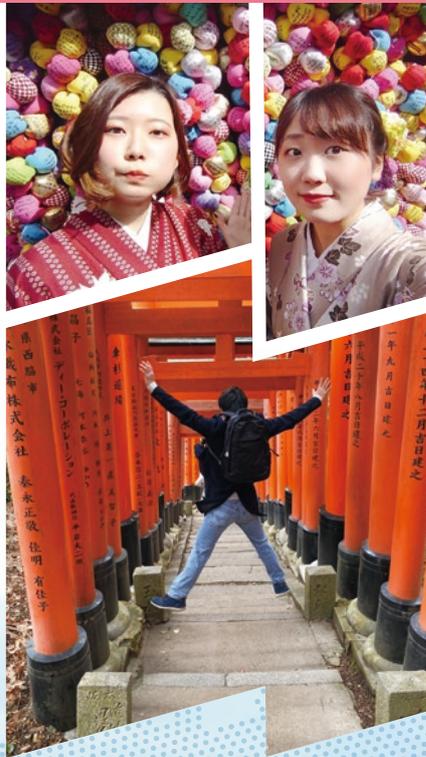
08 2019年度 卒業研究コンテスト

09 2019年度 卒業研究題目一覧(一部)

10 新任教員紹介  
日本文化学科 准教授 片岡 耕平  
日本文化学科 准教授 丸島 歩  
日本文化学科 講師 岡田 一祐  
日本文化学科 講師 谷端 郷

11 人文学部 TOPICS  
蟬塚咲衣さん「第9回 Esri Young Scholars Awards」受賞  
特別オンライン講演会を開催  
『世界遺産とは何か?』刊行

裏表紙 就職・進学情報  
留学状況/資格取得状況



# 「ヒト」を知る 「世界」が広がる



表紙写真:2019年度「日本文化特別演習」と「英米文化特別演習」の様子



特集



# 人文学部の 北海道観光・ 地域振興特別講座 を紹介します！

人文学部には、北海道という土地柄、旅行・観光業界への就職を考える学生が大勢います。そうした学生たちにとって、観光という異文化接触の現場において人文学部での学びを活かすために、知識や理論面だけではなく、最前線で観光に携わっている人から直接話をうかがう機会をもつことは非常に重要だと考えます。そこで人文学部では、観光のプロフェッショナルの皆さんを講師にお招きして、「北海道観光・地域振興特別講座」を開催しています。ここでは、2019年度に開催された観光講座についてご紹介いたします。

※本講座は北海道観光の現状と課題・可能性について、講師・学生・来場者の皆さまと一緒に考えていくイベントです。人文学部ウェブサイト・Facebookなどでスケジュールをご確認のうえ、どうぞお気軽にご参加ください(2020年度の開催は未定です)。

第5回

2019年6月7日(金)

## 数字で考える北海道観光

講師 大橋 裕二 氏(株式会社 AIRDO 取締役)

「北海道の未来を支える人材の育成」を目的として人文学部と教育連携協定を締結している株式会社 AIRDO から大橋裕二氏を講師にお招きしました。

北海道の面積の広さや人口構成、産業構造などの観点から北海道の特徴について、そして観光地としての魅力の高さや移住地としての可能性などについて、北海道観光に関わる多くのデータからわかりやすく、幅広く話題を取り上げてお話しをしていただきました。



また、現在の観光消費額から観光産業を、北海道経済を支える重要な産業のひとつとして位置づけ、外国人観光客が増える背景となった北海道の旅行者の受け入れ事情と環境や、インバウンド頼りなどの問題を含めた現状と課題についてもご解説いただきました。講演後は、特に航空業界に関心のある学生が熱心に質問しており、講師の方に大変丁寧にご対応をいただきました。また、新聞の取材の方やメディアの方も来られ、講師が語られる北海道観光への注目の高さがうかがえました。

## —雑誌『スロウ』の世界広がる中川町の森林—

講師 高橋 直樹 氏(中川町総務課企画財政室/本学 OB)



北海道北部の中川町について、高橋氏から、移住者獲得目標や現状をご紹介いただき、人口減少が続く「観光空白地帯」と呼ばれる中でのさまざまな取り組みについて、中川町の森・木材の特徴と、それらを町づくりや観光にどのように生かしていったかを、「地方「創」生」や「観「光」」といった言葉にも着目してお話いただきました。

人文学部と連結協定を結んでいるソーゴ印刷が刊行する雑誌『スロウ』

との関わりについてもお話いただき、講演後には、ソーゴ印刷と中川町が協働して実施する本学部のインターンシップにも参加希望者が現れるなど、熱意溢れるお話しに感銘を受けた学生も多く、北海道の地域振興への関心の高さもうかがえました。



## 第1回ソーゴ印刷

## インターンシップを実施しました



2019年9月に人文学部の学生4名をソーゴ印刷株式会社のインターン生として5日間受け入れていただきました。人文学部とソーゴ印刷との連携協定に基づき実施されたもので、学生4名は同社刊行の雑誌の企画、取材、編集等を体験し、営業・出版業界での働き方について学びました。その様子をソーゴ印刷のウェブサイト (<https://www.sogo-printing.com/news/news-1749>) にてご掲載いただいています。ぜひご覧ください。

※本インターンシップは今後も継続して行われる予定です。

講師 大西 雅之 氏(鶴雅ホールディングス株式会社 代表取締役社長)

本講演では、北海道における地域の自立と持続という観点から、観光の可能性と課題についてお話しいただきました。北海道が新千歳空港に80%が集中していることを鑑み、地方空港も一体的に民営化すべきこと、さらには道央・道南・道北・道東の各エリアが自らの魅力を獲得・発信し、それぞれに観光客をひきつけることの必要性が説かれました。



また北海道には歴史や文化がないと言われることに対して、アイヌ文化の価値と、阿寒が誇る本物のアイヌ文化と融合したアドベンチャーツーリズムの可能性についてお話しいただきました。さら

には阿寒湖を東北道観光の拠点とすることなど、様々なお話をうかがいましたが、全てに共通するのは、常に北海道の未来を見据えていることです。北海道の観光を担うリーダーとしての責任と、世界に通用するリゾートとホテルを創ろうという強い熱意を感じ取ることができる講演でした。学生も大きな刺激を受け、熱心な質疑が行われていました。



※次ページには、鶴雅リゾート株式会社でインターンシップを行った人文学部の学生へのインタビューを掲載しています。あわせてご覧ください。

現役学生  
インタビュー阿寒湖を舞台に、  
北海道と観光のいまと未来を学ぶ！

人文学部ではインターンシップの一環として、2019年から「鶴雅観光人材養成講座」に学生を派遣、同年は5人が参加した。その中からお二人に、観光や北海道の見方がいかに変わったか、進路を考える上でどのように役に立っているかなどについて伺った。



高橋 かえで

人文学部 1 部  
日本文化学科 4 年  
(札幌東高校卒業)



酒井 信貴

人文学部 1 部  
日本文化学科 3 年  
(帯広柏葉高校卒業)



柴田 崇

司会進行：人文学部  
英米文化学科教授

## 鶴雅観光人材養成講座

鶴雅リゾート株式会社では、道内外の大学生を対象に、阿寒湖ホテルにて「鶴雅観光人材養成講座」を2007年から年2回、約3週間にわたり実施しています。このプログラムは、観光人材の養成を目的にした篤志による研修で、交通費、宿泊費、食費を含め、参加費は一切かからず、すべてを鶴雅リゾート株式会社が負担してくれます。人文学部でも観光業界、および観光関連業界への就職希望の多さに応えるため、講座開設から13年目となる2019年、第26期より参加、夏期(偶数期のみ)の研修に学生を継続的に派遣できる体制が整いました。第26期は、人文学部より日本文化学科4人、英米文化学科1人、計5人の学生が参加、2020年第28期も5人の参加が決定していましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により実施が見送られました。2021年夏の第30期は実施される予定です。

3週間にわたるインターンシップ、  
座学や旅館の仕事体験で観光事業を知る。

**柴田** お二人が「鶴雅観光人材養成講座」に参加して1年が経過しましたが、まずは本講座に参加した理由、経緯について教えてください。

**高橋** 日本語に興味があって、日本語学をやりたいくて日本文化学科を選んだのですが、観光にも元々興味を持っていました。家族旅行で道内のいろいろなところに行き、鶴雅リゾートを利用したこともあって、観光に関わる職業に就きたいな、と。そういう中で、人文学部も鶴雅リゾート株式会社のプログラムに参加することになったので、これはいい機会だと思って応募しました。

**酒井** 国語の教師を目指しているのですが、北海学園大学の教職課程で国語の教員免許を取れるのが日本文化学科だけだったので進学しました。この講座は、北海道や観光についての知識を身につけたい人も参加OKとのことだったので、目先のことだけではなく、未来をも見据えた学びの場として参加させていただきました。大学生活中に様々な知識をつけておくことで、教師になったときに生徒に幅広い知識を伝えられると考えました。



**柴田** 具体的な研修内容について紹介してください。

**高橋** 研修は座学がメインで、ホテルの役職の方や地域の方、大学の先生など、産官学の各分野における専門家が講師をされ、北海道や阿寒地域の観光についての講義が、ほぼ毎日ありました。

**酒井** 観光事業として実際に行われている、森での自然体験メニューにも参加しました。お客様の前に出る実習では、僕はドアマンを体験したのですが、ドアマンの方は堂々としていて、流れが実にスムーズなんです。僕たちは、お客様を前にするとあたふたしてしまって……(笑)。お客様がホテルに着いて最初に出会う、実は重要な仕事だということが理解できました。

**高橋** 女子は、現場に出る前に着物を着る実習があって、着付けをしてからお食事処のご案内やエレベーター前に立って温泉へのご案内をしました。着物に慣れていないし、立ち姿なども意識しなくてはいけなかったので、自信なさげに見えたのか、お客様は社員さんに話しかけることが多くて、同じ格好をしていても分かってしまうんですね(笑)。「いらっしやいませ」、「お帰りなさいませ」の指導は受けたのですが、それ以外の会話で言葉がすぐに出てこないのは悔しかった。敬語の使い方も含めて、その状況にあった会話をしっかりとできるようにになりたいですね。外国人のお客様でも、まずは「いらっしやいませ」と日本語で接するのですが、外国の方が感じる日本らしさということも求められているんだなど実感しました。日本語の、言葉の重要性というものを改めて考え直すきっかけにもなりました。

**酒井** 第26期は北海学園大学をはじめ道内の数大学から学生30人くらいが参加していて、各大学の学生が混成のグループとなつてのグループ学習も行いました。

**高橋** 阿寒地域の観光について自分たちが思うことや、ホテルの改善点を探してみようなど、いくつかのテーマからグループごとに選択して取り組み、閉会式の前に発表を行いました。

阿寒の素晴らしい自然を満喫し、  
アイヌの生活、文化と世界観を体感する。

**柴田** 自然体験メニューでは、いわゆるエコツーリズムという新しい観光のあり方で、阿寒の素晴らしい自然を満喫できたのではないですか？

**高橋** 前田一歩園財団の所有林を歩く阿寒ネイチャーセンターの「光の森」ハイキングは、本当に素晴らしいツアーでした。初代園主の故前田正名翁は、「阿寒の山林は切る山ではなく、見る山だ」といったおかげで、いまも手つかずの原生林のまま残っているとお聞きしました。認定ガイドとのみ入林が可能となっているプログラムで、見どころを説明してもらいながら歩くので、外国の方には特に人気だそうです。

**酒井** 北海道は自然の素晴らしいところがたくさんあるけれど、阿寒の自然は特別ですね。阿寒湖周辺でもシカがいて、近づいても怯えずに平然としているんです(笑)。マリモが球状にきれいに丸くなるのは阿寒湖特有で、湖水の流れがあって完成するものです。マリモの中がどうなっているかも教えてもらい、大変驚きました。ホテルに泊まって景色を見たりするだけではなく、自ら体験できる新しい観光の仕方を初めて知って、とてもいい勉強になりました。

**柴田** 鶴雅観光は、比較的長く滞在してもらって、その土地なりの本当に

価値のあるものを体験してもらうという方向に観光の舵を切っている。北海道観光の将来を先導していくトップモデルなので、素晴らしい体験ができたと思います。アイヌ文化についての座学はどのような感じでしたか？

**酒井** 座学では、アイヌ全般についての説明と、阿寒湖地域での状況について伺いました。そして、阿寒アドベンチャーリズムが実施している、「ロストカムイ」と「カムイルミナ」を体験しました。アイヌの座学では、札幌大学の先生が二風谷での研究について、アイヌの人の生活、さらには生き様までもお話いただき、いままで以上にアイヌへの関心が高まりました。

**高橋** アイヌについても、自然の中で見る、学ぶというのは、やはり説得力が違いますね。「自然とともに生きてきた」というのはこういうことなんだと、肌で感じました。「カムイルミナ」は、阿寒の森でライティングやプロジェクションマッピングを駆使し、阿寒湖に伝わるアイヌの物語をデジタル体験するナイトウォークです。また、阿寒湖アイヌシアター「イコロ」で鑑賞した阿寒ユーカラ「ロストカムイ」は、伝統的な古式舞踊を体感できるアート作品ともいえるものです。「カムイルミナ」や「ロストカムイ」は、アイヌの世界観が伝わりやすいし、アイヌの知識はもちろん必要だけれども、感覚的なものも伝えていくには大事だと感じました。

**柴田** この研修は、他のインターンシップと比べてみてどうでしたか？

**高橋** 阿寒湖温泉というのは、かなり特殊な地域だと思いますが、地域の方との交流やイベント体験など、ホテルの中だけの研修とは違って、この地域ならではのさまざまなプログラムが用意されています。座学でも、マリモの秘密とか、温泉博士のお話とか、アイヌについてのお話だとか、ホテル、旅館のことだけでなく、北海道を知る、あるいは地域を知ることが主眼となっています。町、地域全体で観光業をどのように盛り立てていくかという熱意も感じられました。これは他のインターンでは経験できない大きな特色、魅力だと思います。その後、ビジネスホテルでのインターンも経験しましたが、同じおもてなしでもまったく別ものだと感じました。

**酒井** 他にはインターンの経験がないのですが、現地で3週間滞在して研修を受けるというのが特徴的ですね。長期インターンだと実際に仕事をするイメージでしたが、座学で基礎を学びながら、さまざまな体験もできる盛りだくさんな内容は、他のインターンとの大きな違いでした。

**柴田** 研修で大変だったことはありますか？

**高橋** 人文学部なので、経営や観光の知識がなく、座学で当たり前のように出てくる言葉が分からなかったりして、ついていくのが大変でした。

**酒井** 僕も同じでした。経営学部や観光学部の学生は、授業などで前もって勉強していたことも多くて、理解が早かったようです。

**柴田** 人文学部の学生が少しでも事前学習できるように、今年から座学で使われるスライドやテキストの事前配付をお願いしています。

**高橋** 私たちのときにもあったら、予習して臨めたのですがね(笑)。人文学部でも、北海商科大学の観光関連科目を履修できるんですね。

**柴田** 事前学習の機会を確保するという意味では、北海商科大学の観光関連科目を単位互換制度で受講するというのも一つの方法で、制度的には十分に整っているのだから、多くの学生に履修してもらいたいですね。

## 北海道と観光の可能性について、阿寒での体験から未来を志向する。

**柴田** 今回のコロナ禍を経験して、北海道の将来あるいは産業について考えるところはありますか？

**高橋** 観光業は、コロナのようなパンデミックが起こると、一気にダメージを受けてしまうので、やはり脆弱で難しい産業だなと思いました。周りの人たちも早く旅行に行きたいという声が多いですが、なんとかこれを乗り越えるしか道はないのでしょうか。

**酒井** 道内にはいろんな旅行先があって、身近なところで満喫できるとい

うのは、やはり北海道の強みだと思います。北海道の観光産業は、特に中国や韓国などアジア圏のインバウンド需要が支えていた部分も大きく、そこは見直す必要があるとは思いますが、終息後も基本的には頼らざるをえないのでしょうか。でも、それにプラスして、道民にもっと地元である道内旅行をしてもらうことを考えなければいけない。それから、コロナによってオンラインがものすごく普及したので、それをどのように使って地域のよさ、強みを打ち出していけるかが北海道の未来を左右すると思います。北海道にそういう新しい価値を見出せたら、若者は北海道に残ると思うし、東京でできる仕事はオンラインにより北海道でもできる。そういう環境をつくれれば、北海道もまだまだ頑張れるぞと思っています。

**高橋** 北海道にも眠っているものがたくさんあるはずで、新しいものをつくって何かしようというよりも、いまあるものをどう発信し、いまあるものを使って何かできないかを考えることが必要なのだと思います。

**柴田** 今後の進路はどのように考えていますか？

**高橋** 観光業以外で内定をいただいた会社はあるのですが、観光業の採用活動はコロナの影響で全然始まっていない……。希望はやはり観光産業なので、これからも就職活動は続けていきますが、採用を取りやめる企業もあるようで今年はとても厳しい状況です。

**酒井** まずは教職を目指して頑張っていきます。

**柴田** 後輩たちに伝えておきたいことはありますか？

**酒井** 人文学部では、1年生の人文学基礎演習、2年生の人文学演習は日本文化学科と英米文化学科の混成クラスですし、その他の専門科目も一定の範囲内でもう一方の学科の授業を履修できるシステムになっていて、そこは強みかなと思います。日本文化学科に入っても、日本文化だけではなく多様な学びができるということは、ぜひとも高校生に伝えたいですね。

**高橋** 人文学部は何を学べるのか分かりにくいとよくいわれますが、自分が能動的になりさえすれば、本当に幅広いジャンルを学ぶことができます。いろいろとチャレンジしてほしいですね。

**酒井** この講座に2年生で参加しましたが、大学で募集するプログラムなので安心して行けたし、これだけ内容の濃い研修を他の学生よりも一足先に経験できて、とても勉強になりました。知らない職業も体験してみると、きっと自分のプラスになると思うし、早めに体験した方がいいと思います。みんながインターンに行くから自分も行くとか、就活に生かせるからと受け身で考えるのではなく、積極的にチャレンジすべきですね。

**高橋** 1日、2日のインターンは、ほとんど業務説明会みたいな感じで、それではたぶん何も分からない。大学でこの講座について掲示されたときも、3週間は長いから応募しないという人が多かったのですが、長いからこそいろいろな体験ができたし、3週間やっても分からないことがたくさんあるのと思いました。できるときに、できることをやる、というのはとても大事ですね。

**柴田** 研修に参加する前と後では、観光についてはもちろんですが、北海道に対する考え方も大きな変化があったように感じます。送り出す側としては、十分な成果があったと思います。今日はありがとうございました。



## Seminar No.25

日本文化学科

田中 綾  
3年ゼミ(1部)  
【日本近代文学と創作】



ゼミの主な活動は、次の2点です。  
1点目は、「近代の短編小説の精読と、構造分析」。『〈異界〉文学を読む』をテキストに、芥川龍之介、太宰治、梶井基次郎、夢野久作、江戸川乱歩ら、〈異界〉をテーマとした近代の短編小説を丁寧に読み深め、構成表を作って「構造分析」をしています。実は、〈異界〉物語にはゲームのようなパターンがあり、「作中主体（主人公）の異界侵入→妨害や抵抗→ある機会に現実へ帰還→成長」の流れを発見し、確認する楽しみを味わえます。

2点目は、「創作」。キャラクターの「履歴書」を2人分作成し、そのキャラクターを登場させた短編小説を全員で執筆します。その後、グループに分けてゼミ生同士で合評を行います。

また、今年は、「先輩の作品を読む」企画として、新刊の上野ゆかり著『二条陰陽寮の少年たち』（富士見L文庫）を読み、評価基準にそって講評を行いました。京都を舞台とした異界ファンタジーで、キャラクター造形の巧みさはさすがの高評価でした。“先輩”



上野ゆかりさんは、覆面作家のため、「本学の人文学部卒業生」くらいとしか明かせないのですが、今後もファンタジー作家として活躍することと思います。ぜひ一読を！

さて、これまで、ゼミで文芸誌を刊行し（1部は『A207』、2部は『道懐』）、夏の「文学フリマ札幌」に出店してきました。そこで他大学の文芸誌との交流も続けてきたのですが、今年度は、残念ながら文学フリマは中止……。そのため、文芸誌の刊行は来年度にまわします。けれども、いつも「ゼミ生が主役！」のゼミであることは変わりません。

# ゼミ紹介

## Seminar No.26

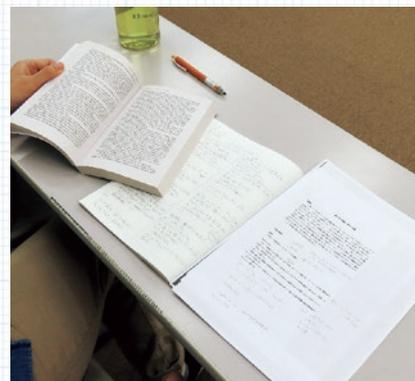
英米文化学科

森川 慎也  
3年ゼミ(2部)  
【英文学】



私のゼミでは英文学の名作を鑑賞します。イギリスの「小説の神様」とも評される19世紀の文豪 Charles Dickens の *A Christmas Carol* が講読テキストです。『クリスマスキャロル』（クリスマス祝歌）は映画や絵本にもなっている有名なお話だからという理由で、本ゼミを選択する学生も中にはいるのですが、指定した Penguin Classics 版の原書を購入して扉をめくると、見たこともない英単語がずらずら出てきて、「やっちゃったー！」と叫ぶも、It's too late... ここは Dickens とやらの英語と格闘するしかないと観念したところで学期がスタートします。最初は恐る恐る原文を読み始めていたゼミ生たちも、読み進めるうちに、「この比喻はいかにも Dickens らしいですね」と Dickensian 張りの発言をし始めるので、予想以上の適応力に今度は私が面食らいます。

前期は *A Christmas Carol* と 19 世紀ロンドンに関する資料を読みます。後期は同作について書かれた様々な文献に目を通し、文学研究の基本を学んでもらいます。文学の読み方は多種多様ですが、定石らしきものを一つ挙げるとすれば、それは使われている言葉



（英語）に着目することです。一例を示せば、「消火栓から溢れ出た水が凍った」という何でもない光景を描くのに、なぜ Dickens は “The water-plug being left *in solitude*, its overflowings *sullenly* congealed, and turned to *misanthropic* ice.”（強調森川）と描くのか？ なぜここで擬人化する必要があるのか？ と考えるのです。文学を楽しく読むコツは、〈どのように〉書かれているのかに注意を向けることです。*A Christmas Carol* を英語で読んでごらんください。Dickens の巧みな話術に嵌るかもしれませんよ。

# ESSAY IN NEW YORK

## 研究留学について

英米文化学科 教授 佐藤 貴史

2019年9月から2020年8月までの1年間の予定で、わたしは19世紀ドイツのユダヤ教ならびにユダヤ人の思想を研究するために、ニューヨーク大学ヘブライ・ユダヤ学科に客員研究員として滞在しました。ところが、ニューヨークに到着して6ヶ月が過ぎると、コロナウイルスの影響で、ニューヨークはこれまで以上に世界中から注目される都市になってしまいました。あれだけ活気のある都市において、人々は家に閉じこもり、お昼頃に開かれるクオモ州知事の会見にじっと耳を傾けていたのです。この話は、最後に少しだけ紹介します。

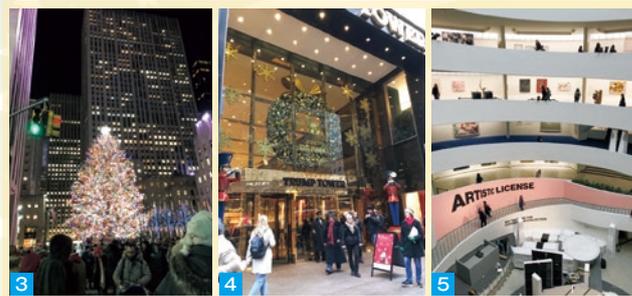
もう10年以上前になりますが、ドイツのミュンヘンで約1年間、寮での集団生活を体験したことがあります。しかし、今回は自分でアパートメントの契約をしたうえでの完全な一人暮らし、しかも場所はマンハッタン。写真1の真ん中に写っている茶色い建物の12階にある小さな、しかしかなり高額な家賃の一室を借りました。

基本的に住人であっても、1階フロントにいるスタッフに出入り口を開けてもらわなければ入れないので安心感があります。ただ、彼らの日々の仕事に感謝を示すためにクリスマスツップを渡すという習慣があることを知り、12月にけっして少なくないスタッフの名前が書かれたリストを見たときは少しとどきました。もちろん義務ではありませんが、今後の生活を快適にするために誰にいくら渡すべきか、向こうで知り合った人に聞いたり、ネットで調べたり……答えは人それぞれでしたが、結果的にうまくいき、それなりによかったです。さらによくなりました。



さて、ニューヨークは誘惑の多い街なので研究者は気をつけなければなりません。いつロックフェラーセンターを見に行こう、トランプタワーはどこにあるのだろう、たくさんある美術館はどの順番で行くべきか、などと考えていると、あっという間に時間が過ぎてしまうのです。

誘惑に打ち勝ちながら、わたしはいくつかの場所で研究を進めました。そのうちのひとつが、ユダヤ史センター (Center for Jewish History) というユダヤ教やユダヤ文化に関する複合研究施設です。このセンターのなかにはレオ・ベック研究所 (Leo Baeck Institute)



と呼ばれる世界的に有名なユダヤ研究の拠点があり、日本では手にすることのできない貴重な文献が保存されています。第二次世界大戦後、ユダヤ知識人たちはドイツの激しい反ユダヤ主義によって消滅しかけた自分たちの文化を守り伝えるために、この研究所をニューヨーク、ロンドン、イスラエルに創設したと言われています。

実はコロンビア大学でのセミナーに参加したときに、レオ・ベック研究所の Director of Collections である Renate Evers さんと知り合うことができました。Evers さんはセンターのなかを案内してくださり、過去の思想家が書いた直筆の日記や手紙を見せてくれました。外国にいると偶然の出会いによって、日本ではできない経験することがあります。外国滞在の楽しみの一つです。

また、ニューヨーク大学のランチ・コロキウムで日本のユダヤ研究の状況について発表しました。英語で発表し、質問を受けることは簡単なことではありませんが、日本語の読めない研究者にとっては知らないことばかりだったようで、関心をもって聞いてもらえたと思います。

順調に思えたニューヨーク滞在も、ある時を境に大きく変わりました。ニューヨークでは3月にコロナウイルスの感染者や死者が急激に増えたのです。クオモ州知事はほぼ毎日会見を開き、データを示しながら状況と対応について市民に伝えようとしていました。買い物や軽い運動以外は自宅で待機することを指示されましたが、医療関係者、日用品の販売者、アパートのスタッフなどは Essential Workers と呼ばれ、市民生活を支えるために働くことが認められました。アパートのなかでは彼らに向けて感謝の気持ちを伝える子どもたちのメッセージを見ることができました。



8月に帰国する予定でしたが、少し早めて戻ってきました。前半と後半では文字通りガラッと変わったニューヨーク滞在でした。しかし、その地でコロナ以前とコロナ以後を体験したことは、わたしにとって研究と同じくらい大切な意味をもっていると考えています。

- 1 もう少しで築100年のアパートメント。好奇心であえて古い建物を選んだ。
- 2 ハロウィンの時期には飾り付けをした家をよく見た。
- 3 ロックフェラーセンターにあるクリスマスツリー。
- 4 クリスマスマードのトランプタワー。多くの人が記念写真を撮っていた。
- 5 グッゲンハイム美術館。絵画もよいが、建物自体がユニークであり、螺旋状の通路が楽しい。
- 6 ユダヤ史センターの建物。
- 7 ランチ・コロキウムの案内。写真右が筆者。
- 8 Essential Workers に向けられたメッセージ。



人文学部では、4領域（言語文化、思想文化、歴史文化、環境文化）のそれぞれから教員によって推薦された卒業研究のコンテストを行っています。日本文化・英米文化ともにいずれも優秀な研究ばかりで、審査員一同大いに悩みましたが、最優秀賞を1本、優秀賞5本を選出しました。ここに講評を示すとともに、受賞者のみなさんの素晴らしい研究成果を讃えたいと思います。

## 2019年度 卒業研究コンテスト 講評

人文学部長 大森 一輝

卒業研究コンテストで優秀賞となったみなさん、おめでとうございます。今年は、新型コロナウイルスの感染が広がるという不測の事態のため、発表会と表彰式が行えなくなったことは大変残念ですが、プレゼンテーションやセレモニーがなくなっても、みなさんが優れた研究成果をまとめた事実には変わりはありません。そのことを記録に残すという意味でも、このような形で、審査委員長として、講評を伝えさせていただきます。

今年も各分野から選ばれた論文は力作揃いで、本当に甲乙付け難かったことを、最初に強調しておきます。どの論文も、卒業に必要なだけ「書かされている」という気配が全くなく、「書きたい／書かなければならない」という強い思いを感じさせるものでした。

しかし、その思いは、（ここで、あえて厳しい言葉を使いますが）どこか「ひとりよがり」だという印象も拭えませんでした。過去の研究成果の受け継ぎ方、現在を共に生きる読者への語り方や、未来を創る人々への自分の考えの伝え方は、まだまだ不十分で、どちらかという、閉じられた世界の中で書かれていたからです。

そのこと自体は、必ずしも悪いことではありません。まずは自分が「独り」でも「善い」と思って「独り善がり」で始めるのが

研究だからです。上原専祿という歴史家は、ゼミ生が卒論のテーマを選ぶときに、「それをやらなければ生きてゆけないテーマを探す」ように言っていたそうです。他の誰でもない自分にとって、そのくらい切実なことでなければ、そもそもやる意味はない。この点では、みなさんは、全員合格どころか、全国のどの大学で卒論を書いた、どの学生にも引けを取りません。そのことは、私が保証します。ただし、そこで終わってしまっただけでは、自己満足の域を出ません。「独り善がり」で始まった研究は、「他者との対話」にならなければ、個人的な趣味に留まるしかないので。

論文とは、独りで「善い」と思っていたものを、他の人とシェアするための「手紙」です。最優秀賞・優秀賞になった人だけでなく、人文学部を卒業されるみなさんは、「自分にとって大切な」卒論を書き上げたことで、先人から「手紙」を受け取り、次の人に「手紙」を送るためのスタートラインに立ちました。みなさんの学びは、これで終わりではなく、ここから始まるのです。どのような人生を歩むにせよ、自分は、学問という、この長く豊かな共同作業の中にいるのだということを忘れないでほしいと切に願います。

### 👑 最優秀賞

〔歴史文化〕 萬谷 佳帆さん 日本文化学科 郡司淳ゼミ

## 「近現代における家の肖像—天売島萬谷家を事例として—」

〔講評〕

ファミリー・ヒストリー

ご自分の家族の歴史を跡付けた論文なのですが、何より素晴らしいのは、抜群におもしろい読み物になっていることです。しかも、「わたし」の目線で日本の歴史を検証する（歴史と対話する）ことにも、かなりの程度成功しています。萬谷家や天売島の生業や生活を、文字資料が少ない分、写真の分析やオーラルヒストリーの手法を活かして、家族でありながら客観的に、それでいて、それぞれの人物に寄り添うように描く手際の見事さを高く評価しました。

### 👑 優秀賞

〔言語文化（言語）〕

田島 杏名さん 英米文化学科 田中洋也ゼミ

「ディズニーアニメーション映画を用いた  
英文法学習の可能性—映画例文集の活用—」

〔言語文化（文学）〕

佐藤 朱莉さん 日本文化学科 テレングト・アイトルゼミ

「宮沢賢治作品における『妹トシ』  
—その存在と面影—」

〔言語文化（文学）〕

塩尻 遥さん 日本文化学科 関本真乃ゼミ

「谷崎潤一郎『魔術師』論  
—虚構の創造と理想の体現—」

〔思想文化〕

渡邊 渚央さん 日本文化学科 鈴木英之ゼミ

「『即身成仏義』における瑜伽の表現  
—構造に見る大日の普遍性—」

〔環境文化〕

西田 紗彩さん 日本文化学科 手塚薫ゼミ

「災害時の障害者の避難支援」

## 2019年度卒業研究題目一覧（一部）

### ◆日本文化学科

言語文化 【言語】	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本語とモンゴル語の語彙の違いについて—自然・歴史・宗教の観点から文化的背景を考える—</li> <li>● 伝わる日本語をめざして</li> <li>● ストリートダンスにおけるオノマトベの実態</li> <li>● 『ちはやぶる』の語誌について—「ふ」と「ぶ」の清濁を中心として—</li> <li>● フォークソング全盛期の10年間と歌詞についての研究</li> <li>● 『Le Petit Prince』邦訳比較</li> </ul>
言語文化 【文学】	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グリム童話にみられる描写とその影響</li> <li>● ケルケゴールと「憂鬱」—「メランコリー」に関する幾つかの考察—</li> <li>● 古典を高等学校でどのように教えるか</li> <li>● カグヤ姫の呪い（小説）</li> <li>● 明治・大正期における女性の「あるべき姿」の変遷</li> <li>● 「渠」字考</li> </ul>
思想文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界の神々と天照大御神—特異なる純血の最高神—</li> <li>● 葬送儀礼の変容—私たちにとって葬送儀礼は必要なものか—</li> <li>● 『歎異抄』の疑問—八、十二、十三条を中心に—</li> <li>● 禅寺の天井に描かれる雲龍図</li> <li>● アイヌ語由来の北海道市町村名に関する考察</li> </ul>
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 洋食と北海道の食文化</li> <li>● ファイターズがやってくる</li> <li>● 禁教の時代から見る隠れキリシタン信仰</li> <li>● なぜLINEが現代のメッセージングツールの代表格になったのか—考察と今後の展望—</li> <li>● アイヌ文化の歴史—イオマンテとアイヌの精神—</li> <li>● 新皇将門 私闘なき板東の統一</li> </ul>
環境文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ショートフィルムの上映を増やすために—地方都市：札幌を例に—</li> <li>● 観光資源としてのラーメン—「ラーメンの町」札幌—</li> <li>● 奥尻島青苗言代主神社例祭が直面している課題—北海道南西沖地震と人口減少社会への対応を中心に—</li> <li>● なぜディズニーランドはリピーターが多いのか</li> <li>● 食によるまちおこし—『富良野オムカレー』を事例に—</li> <li>● KinKi Kidsのファン心理について</li> </ul>

### ◆英米文化学科

言語文化 【言語】	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 使役動詞がもつ原型不定詞の形式について—歴史的発達から見た考察—</li> <li>● 日本語と英語のことわざから見るイメージ</li> <li>● ディズニーアニメーション映画を用いた英文法学習の可能性—映画例文集の活用—</li> <li>● 英単語の接辞知識と未知語推測の関係</li> <li>● The Awareness of Japanese English by Japanese People</li> </ul>
言語文化 【文学】	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 『九つの物語』(Nine Stories)における「子供」の存在と「隻手の声」</li> <li>● Jane EyreとWide Sargasso Seaの比較から見る女性像</li> <li>● A Christmas Carol—原作と映画の比較とその考察—</li> <li>● Katherine DunnのGeek Loveにおける障害者の描かれ方</li> <li>● 『ヒトラーと暮らした少年』における間テクスト性</li> </ul>
思想文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● どうして人間は人種差別をしてしまうのか—ハインリヒ・ヒムラーの人種差別思想を通して—</li> <li>● 『シンデレラ』とその原作から見える現代社会</li> <li>● 『ツァラトゥストラはこう語った』において、誰が誰に語ったのか?—どの視点で語ったか—</li> <li>● デンマークの建築家フィン・ユールのインテリアデザインについて</li> <li>● モーツァルトは本当に天才なのか?</li> </ul>
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 黒人女性を苦しめるステレオタイプ</li> <li>● Displacement and Resettlement for Development: Project-Affected Persons in the Case of Thilawa Special Economic Zone, Myanmar</li> <li>● なぜイギリスが「音楽のない国」と呼ばれたか</li> <li>● 15～17世紀におけるドイツの魔女観</li> <li>● フランス革命期における女性の権利運動の歴史と成果とその問題点</li> <li>● アンシャン・レジーム期のフランス社会における子どもへの関心と変移—大人たちが求めた子ども像—</li> </ul>
環境文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AI兵器の未来</li> <li>● セイバーメトリクスからみる野球の在り方—頭を使う野球とは何か—</li> <li>● 図書館における電子資料の保存と利用</li> <li>● 現代女子大生のやせ志向と健康観</li> <li>● 利尻島の選択—ニシン漁全盛期・衰退後に注目して—</li> <li>● ドラマ『北の国から』が富良野に遺したもの</li> </ul>

# 新任教員紹介



日本文化学科 准教授

**片岡 耕平**

KATAOKA Kohei

担当科目: 日本史概論 I

4月に日本文化学科に着任しました。専門は、日本中世史です。当時の人々の思考や行動を強く規定していた、死や出産を穢とする観念に視点を据えて、天皇・境界・身分・差別・死生観といった事象を分析してきました。また、最近では、当時の時間意識のあり方、特に市場や経済活動との関係についても研究しています。過去の思考や行動を復元するには、想像力が不可欠です。現代のものとは違う言葉で書かれた文献を読み解き、そこから想像を膨らませていく楽しさを伝えたいと思っています。



日本文化学科 准教授

**丸島 歩**

MARUSHIMA Ayumi

担当科目: 日本語教授法 I・II、日本語教育特別演習、人文学基礎演習、人文学演習A、日本文化専門演習 I・II

今年4月に日本文化学科に着任しました。「日本語教授法」の講義科目と、人文学部のゼミ等を担当することになっています。私の専門は実験音声学で、現在は演技音声の分析を通して話し言葉のジェンダーのイメージを探ることを研究テーマとしています。その一方で、10年以上国内外で日本語教育に携わりながら、日本語学習者の音声の産出や聴取に関する研究も行ってきました。授業では日本語教育だけではなく、広くことばと社会の関わりについて皆さんと考えていきたいと思っています。



日本文化学科 講師

**岡田 一祐**

OKADA Kazuhiro

担当科目: 日本語学概論、日本語学特論

本年度より日本文化学科に着任いたしました。近代日本語が専門で、とくに文学の歴史を研究しています。

みなさんは谷田製菓の「きびだんぼ」を食べたことはおありでしょうか。いや、「きびだんご」だよという声が聞こえてきそうですね。これは「ボ」ではなく19世紀まで使われていた平仮名で「ご」と読みます。私は、そんな平仮名がどのように今の形になったのかに興味があります。

私自身は関東にいた期間が長いのですが、北海道には縁も多く、久しぶりの札幌生活です。どうぞよろしくお願いいたします。



日本文化学科 講師

**谷端 郷**

TANIBATA Go

担当科目: 人文地理学 I、地理学、地誌学、地理情報システム論

今年4月に日本文化学科に着任しました。私の専門は人文地理学で、専門教育科目の人文地理学や一般教育科目の地理学、地誌学などを担当します。研究テーマはGIS(地理情報システム)と呼ばれるコンピュータマッピングの技術を使って、過去の災害を再検証する歴史災害研究です。また、地図を活用した情報伝達や防災教育にも興味を持っています。私は神戸出身で、大学生から一昨年末まで京都に、昨年一年間は宮崎に住んでいました。地理学やフィールドワークの面白さ、大切さを学生に伝えていければと思っています。

# 人文学部 TOPICS

## 蟬塚咲衣さんが 「第9回 Esri Young Scholars Awards」を受賞しました!

人文学部を卒業し、本学大学院文学研究科修士1年の蟬塚咲衣さんが、2020年7月に「第9回 Esri Young Scholars Awards」を受賞しました。地理情報システム (GIS) のソフトウェアで著名な米国 Esri 社によって、GIS を駆使した研究を行っている世界の優秀な若手研究者に与えられる賞です。蟬塚さんは、GIS の技術を本学の「地理情報システム論」(経済・人文学部共同開講科目) で習得し、奥尻島における祭礼という自身の研究テーマに応用しました。祭礼研究に GIS の技術を導入し、新たな知の創出に貢献した点が高く評価されました。



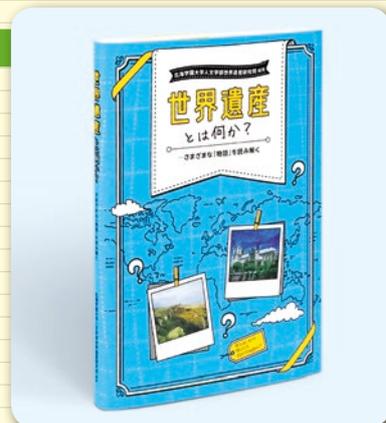
## 特別オンライン講演会を開催



2020年6月26日(金)に人文学部の専門科目「アメリカ史特論」(担当者:大森一輝教授)の中で、特別オンライン講演会が行われました。在札幌米国総領事館の協力を得て、外交官のハービー・ビズリーさんに、Black Lives Matterの現状と課題についてお話しいただきました。授業で学んでいることと密接に関わる現在進行中の事態に、学生の関心も高く、多くの質問が出されて時間が足りなくなるほどの貴重な機会となりました。ビズリーさんが強調された、自らが人種差別をなくすための力になることの重要性を心に刻む機会になったと思います。

## 『世界遺産とは何か?』が刊行されました!

人文学部教員の共同研究の成果である『世界遺産とは何か?—さまざまな「物語」を読み解く』(マイナビ出版。2020年9月16日発売)が刊行されました。世界遺産の「普遍的な価値」を認めつつそれを問い直し、世界遺産を手がかりに歴史や文化の重層性を再確認する学際的な「論文集」です。それと同時に、人文学に関心がある人たち(特に高校生)への「メッセージ」にもなっています。人間の営みとその意味を考える「学問」の世界への扉を、ぜひ叩いてみてください。



# 就職・進学情報

[2020年5月までの集計結果]

2017～2019年度 卒業生内定先・公務員登録先 (人文学部1部および2部) ※順不同。誌面の関係上各業種一部のみ掲載しています。

業種	企業/団体名
建設業	ナガワ/ワールドコーポレーション/三機工業/大嶺キムラ建設/北海道建設サービス
製造業	コアレックス道栄/タカラスタンダード/NICHIJO/オムニ商会/きのとや/グレイシイシイ/コーサー/総北海/三浦印刷
運輸業	ANA新千歳空港/ANA成田エアポートサービス/AIRDO/JALスカイ札幌/ホームロジスティクス/全日本空輸/北海道通運/北海道旅客鉄道
情報・通信業	キーウェア北海道/コンピューターサイエンス/JTB札幌ビジネスセンター/KDDIエボルバ/マイナビ/リッジワークス/共栄システムズ/日本ディスプレイ/日本放送協会
卸売業	オリンパスメディカルサイエンス販売/トヨタ部品北海道共販/ネットトヨタ札幌/フクダ電子北海道販売/NKインターナショナル/丸水札幌中央水産/札幌トヨタ自動車/札幌トヨペット/三菱電機住環境システムズ/資生堂ジャパン/日本アクセス北海道/北海道マツダ販売/北海道酒類販売/北海道味の素
小売業	DCMホームマック/イオン北海道/ウォルマート・ジャパン・ホールディングス/ブックオフコーポレーション/セコマ/セブンイレブン・ジャパン/ダイイチ/ツルハ/ホームマックニコット/ローソン/札幌丸井三越/東急百貨店/ラコステジャパン/生活協同組合コープさっぽろ/大学生生活協同組合北海道事業連合(大学生協)
金融・保険業	あいおいニッセイ同和損害保険/北海道銀行/北洋銀行/札幌中央信用組合/全国労働者共済生活協同組合連合会/帯広信用金庫/第一生命ホールディングス/東京海上日動火災保険/日本生命保険/北海道労働金庫/北海道漁業共済組合/明治安田生命保険
不動産業	常口アトム/未来都市開発/桂和商事/住友不動産販売/北海道セキスイハイム
飲食業	アレフ/はなまる/王将フードサービス/丸千代山岡家/日清医療食品
宿泊・旅行業	JR北海道ホテルズ/JTB北海道/エイチ・アイ・エス/加森観光本社/近畿日本ツーリスト北海道/知床グランドホテル/日本旅行北海道/東武トップツアーズ/名鉄観光サービス
教育・学習支援業	西岡学園/北海学園/札幌進学プラザ/恵庭自動車学校/さっぽろ青少年女性活動協会
医療・福祉業	イムス札幌内科リハビリテーション病院/深仁会/マルベリー/ハッピーデイズ/北海道勤労者医療協会/北海道社会福祉事業団/国立病院機構
サービス業	ALSOK北海道/NOVAホールディングス/マスタプランニング/札幌市水道サービス協会/KENテクノロジー/KSP・EAST/京進/新和/日本防災技術センター/北海道鑑定/JTBビジネスネットワーク/ミュゼプラチナム/共同エン지니어リング/三菱電機ビルテクノサービス/自動車事故対策機構/日本郵便
複合サービス業	きたみらい農業協同組合/とまこまい広域農業協同組合/ホクレン農業協同組合連合会

## 公務員名称

国家公務員一般職(厚生労働省、法務省、農林水産省) / 財務専門官/国税専門官/自衛隊一般曹候補生/北海道職員/北海道警察/札幌市職員/札幌以外の市町村職員(旭川市、小樽市、伊達市、岩見沢市、江別市、釧路市、夕張市、千歳市、恵庭市、北見市、倶知安町、江差町、利尻町、松前町、森町) / 警視庁警察官/国立大学法人等職員

## 2017～2019年度 教員採用状況

2017年度				2018年度				2019年度			
教員	科目	合格者数 ※( )内は講師(期限付)		教員	科目	合格者数 ※( )内は臨時(期限付)		教員	科目	合格者数 ※( )内は臨時(期限付)	
公立学校	国語	中学	1(1)	公立学校	国語	中学	4(1)	公立学校	国語	中学	2(3)
		高校	3(2)			高校	4(2)			高校	2(1)
		中・高	1(1)			中	2(1)			中	2(1)
	英語	3(2)	英語		2(1)	英語	2(1)				
私立学校	国語	5(2)	私立学校	国語	2(1)	私立学校	国語	0(1)			
	英語	1(0)		英語	2(1)		英語	1(0)			
	英語	1(0)		英語	1(1)						

※2019年度は現役卒業生のみ

## 2017～2019年度 進学先情報

### 2017年度

北海道大学大学院国際メディア・観光学院修士課程(1名)  
北海学園大学文学研究科修士課程(2名) 博士課程(1名)

### 2018年度

北海学園大学文学研究科修士課程(1名)

### 2019年度

北海学園大学大学院 文学研究科  
北海道教育大学札幌校 大学院  
北海道大学国際広報メディア・観光学院  
オーストラリア(大学院)

## 留学状況

年度	学年	1部 日本文化				1部 英米文化				2部 日本文化				2部 英米文化				カナダ	韓国	中国	ロシア	欧州	マレーシア	豪州	NZ	米国	イギリス	フィリピン	メキシコ	計(人)
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4													
2017		2	3	2	1	10	18	6	6		1			1	5	2	35	9	1	3			4		3	1	1		57	
2018						8	15	5				1		3	4	5	30	3	1	1		1	4		1			41		
2019				4		12	17	13	2			4	4		2	3	28	13	5	1		1	3		1		1	8	61	

※次の留学を経験した学生を算出しています。

・英米文化特別演習 ・国際文化特別演習 ・日本語教育特別演習 ・協定校留学 ・協定校ではないが、国際交流委員会経由の留学 ・休学期間中の留学 ・その他

## 資格取得状況

【修了者人数】

	2017年度	2018年度	2019年度
日本語教員養成課程	36	25	31
図書館学課程(司書)	21	19	18
図書館学課程(司書教諭)	1	5	2
教職課程(中学・高校国語)	17 ※内3名は高校のみ	17 ※内1名は高校のみ	22 ※内3名は高校のみ
教職課程(中学・高校英語)	14 ※内3名は高校のみ	14 ※内1名は高校のみ	14 ※高校のみ0名
教職課程(高校地歴)	6 ※日文5、英米1	7 ※日文7	4 ※日文4
学芸員課程	12	10	8
社会教育主事課程	0	1	3

## ヒューマン 2020.9 Vol.15

表紙キャッチコピー:「ヒト」を知る「世界」が広がる  
人文学部日本文化学科3年 神谷 琴乃さん  
本を読むときや人と交流するときなど、私たちは人生の中で様々な価値観に触れていきます。人文学部は「他者」を知り「自分」を育てることで自身の常識や価値観を広げることのできる場だと思ひ、このキャッチコピーを考えました。

文化を学ぶ 世界と繋がる  
**北海学園大学人文学部** 日本文化学科(1部・2部) / 英米文化学科(1部・2部)



〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 TEL.011-841-1161(代表) FAX.011-824-7729 URL <https://human.hgu.jp/>

制作・印刷: (株)アイワード PD: 馬場康広 [(株)アイワード 2000年人文学部日本文化学科卒]